



MRIシェアリングサービス Seamr MRI 実証実験

Seamr株式会社

世界の
あしたが見えるまち。
TSUKUBA

背景・目的

- ① 医療機器MRIは全国で月120万回撮影され、有床病院の50%が保有している。しかし使用実態は二極化しており、患者が溢れ撮影待ちが長期化し問題になっている病院と、撮影件数が低く経営課題になっている病院である。
- ② 茨城県地域医療構想では「ICTを活用したネットワークの活用等による連携強化」を2025年の目標に掲げているが、ICTの導入コストやユーザー教育がハードルとなり、広がりは限定的である。

本サービスを用いて、MRI撮影状況の改善およびネットワーク活用における連携強化を図る。

実験内容

概要	Seamr MRI を用いてMRI共同利用を、病院間で実施。
モニター	つくば市内 病院・開業医
スケジュール	2024年8月～2025年3月
検証	MRI稼働状況の改善 / 診療サイクルの改善 / 製品価値の表在化 / メリット・デメリットの確認
体制	Seamr株式会社 3名 2名（交渉、説明、モニタリング、ヒアリング、電話対応）、1名（医師のため、医療面での質問対応）



実験（検証）結果

定量的な成果

1件（つくば市内の2軒の医療機関を繋ぎ実施）

定性的な成果

- ・医療現場のみなさまからのフィードバックをもとにサービス機能として不足している部分が明確となり、改良のキッカケとなりました。
- ・本サービスの価値は、つくば市を超えさらに県全体に展開することでその価値を発揮できることが、明確となりました。



つくば市

今後の展望

- ① 本実証実験での結果から、機能追加を行いPMF（Product Market Fit）にむけ改良を進める。
- ② 都道府県単位でのサービス展開を基本として、営業活動を実施。
2025年度では茨城県から以北を中心に12都道府県展開を目指す。

